

- 1 派遣期日 平成23年10月27日(木)
2 研修先 学校名 千葉県習志野市立大久保東小学校
所在地 千葉県習志野市大久保2-12-1
<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/daitou/>

3 研修内容

習志野市立大久保東小学校 第31回 国語科公開研究会
研究主題 論理的に思考し、表現する力を育む国語科学習
一言語活動の場で話型を豊かに活用することを通してー

大久保東小学校では、昭和52年より現在まで34年にわたり国語科研究に取り組んでいる。その間、研究主題は様々な変遷を経たが、平成20年度より研究主題を「国語科における『考える力』の追及」とし、サブテーマを「思考の方法を身に付けさせる言語活動の探究」として研究を深めている。本校でも、国語で課題研究を進めており、言語活動の充実を図るために参考になると考え、大久保東小学校を研修先に選定した。

「論理的に思考し、表現する力」について

研究主題にある論理的な思考とは、以下のようにとらえている。

文章や話が、前提ー結論、または主張ー理由というような段落構成、骨組みを整えている筋道だった考えであり、直感やイメージによる考えに対して、比較・対照、分析・総合、推論・論証など、もの、ことの間接関係を認証する考え。

「表現」とは書き換え、説明する、感想・意見を述べる、批評する等の可視化された言語活動であり、この「表現」を通して、情報の「比較・対照」、「分析・総合」、「推論・論証」等の思考・判断した内容を評価していく。副主題の「話型」とは、日常生活において使われる「思考の型」ととらえ、**話型を活用することによって、①わかりやすく相手に伝えることができる」とともに、②思考した内容を整理し、より確かなものにすることができると考えている。**

言語活動を通して、子どもたちの思考・判断した過程を見るのであり、学習過程の中で単に言語を伴った行為を行うというだけでは不十分であり、教師側には「ねらい」子ども側には「目的意識」がなければならないとしている。

② 活用型の学習における言語活動について

- ア 書き換える＝リライト＝言い換え
述べられていること(情報内容)を、視点を変えて言い換える(書き換える)。
イ 説明する＝コメント
① キーワード(キーセンテンス)は、具体的にはどういうことかを説明する。
② なぜ、そのようなことが言えるのか、説明する。
③ 筆者がそのように言うのはなぜか、どんな意図があるのか、説明する。
ウ 感想・意見を述べる
[内容について] ① 全体を振り返って、感想・意見を文章にまとめる。
② 情報内容について、どう考えるのか批評・評価する。
[筆者について] 筆者の書き方について、意見を書く。
[言葉について] 文章の書き方について、意見を書く。
エ 思索・熟考
① 自分の問題としてとらえ、自分の考えを書く。
② 読んだことを参考にして、問題を多角的に考える。

上記のような言語活動の中で、どのような話型が考えられるか教師が整理し、授業場面で評価することが大切であり、型にはめて指導するだけでなく、子どもが話型を活用できるような学習の場(言語活動)を開発していた。

③ 話型について 話し合い方や考え方についての話型のみ抜粋

○話し合い方の話型

- ・理由づける … ○○と思います。理由は…です。
- ・賛成する … ○○さんの意見と同じです。
- ・反対する … ○○さんの意見と…が違います。
- ・質問する … 質問します。どうして…ですか。
- ・確かめる … 確かめます。それは…ということですか。
- ・みとめる … ○○さんの…の考えがよいと思います。
- ・うながす … ○○をもう少し詳しく言ってください。

○考え方の話型

- ・比較・対照 同じところは○○です。
○○は…です。しかし○○は…です。
○○は…です。また(一方)○○は…です。
○○によれば…です。
- ・分類 ○○と○○は似ています。
- ・分析・総合 ○○は…です。詳しく言うと…です。
たとえば…です。
まとめると…です。
言い換えると…です。
- ・推論・論証 ○○は…です。だから○○は…です。
なぜなら○○は…だからです。
もし…ならば○○は…です。
○○が…します。すると○○は…になります。

④ 学習指導案・公開授業について

第5学年国語

「まんがの表現方法を見抜け～まんがや名作文学を題材に解説にチャレンジします～」

ア 学習指導案の言語活動の位置づけ

まんが(非連続テキスト)を取り上げ、おもしろさを生み出す仕掛けを解説する。「まんがの～という表現の工夫は…という効果を生んでいる。」というように分析・総合がなされ、「もし～という表現だったならば…という効果は得られなかっただろう。」という推論も有効な解説方法になっている。

イ 友達と解説を読みあうことで相互評価を行い、論理的思考力と表現力をつけている。

ウ 似た意味の言葉や反対の関係にある言葉や接続詞を用いて短文作りを行うことで語彙力を高め、言語活動の質を上げている。

4 感想

公開授業では、自由に発言できる雰囲気があり、教師が児童のつぶやきを大事に板書にしていた。また、グループ(4人程度)の話し合いが静寂な中、実にテンポよく進められており、各自の考えを交流させている。

学年内での研修がしっかり進められており、共同での教材研究を行っている。様々な教科書会社の教材を使用し、児童の実態に合った教科書や教材で指導していた。しかしながら、学級ごとにオリジナルの切り口で授業を実践している。また、学校全体で国語科でめざす児童像が低学年から高学年まで段階的にわかりやすく明示されている。

今後は、研修した言語活動例を参考に、児童に目的意識をもたせられるような単元構想を立て、さらに学校全体でも児童の言語力の育成が段階的・螺旋的に図れるように計画を立て、日々の授業実践をしていくべきだと感じた。